

平成 21 年 3 月 14 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中斎塾 東京フォーラム

平成 21 年 第 3 回講話

おはようございます。

初めての方が大分いらっしゃっていますので、少し中斎塾フォーラムの事を説明してから、恒例の質問を致します。

家庭の中があまり順調に行かないとか、会社も順調に行かないとか、国もあまり上手くいっていない・・・どうなっているのだろうか？ 何か良い方法はないだろうか？ という考えが日本の国の中に満ち溢れています。これに対して、私は非常に単純な考え方で割り切れるし、行動も出来ると思いました。それは日本の古来から伝わっている「もったいない」とか「ほどほどでいい」といった言葉を集約した<足るを知る>という考え方で生きていけば、日本の国も政府も自治体も、企業も個人も皆、良くなるだろうと思っています。それを皆さんと一緒に学びあって、足るを知るを少しずつ深めていこう、そしてその過程で判断基準を身につけていこうではないかと考えて進めています。

判断基準は、本質・大局・歴史の観点でものごとを考えていきましょう。それと知識・見識・胆識です。これらを身につけることによって、行動の原理原則が見えてきます。それらを進めてゆくと、総合的直観力というものが見え始める。総合的直観力が身についたら、素晴らしいことだと存じます。

中斎塾フォーラムでは、これらを踏まえて勉強を進めています。

フォーラムで毎回お聞きする事があります。嘘をついたか、つかなかったかです。嘘をつかない毎日を過ごしていると、実に爽やかです。

「昨日一日、朝起きてから寝るまで、嘘をつかなかった方、手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

もう一つお聞きします。

「昨日、夜寝る時、良い一日だったと思われた方、手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

昨日一日良くなかったとか、嘘ばかりついていたと反省のある方は、鏡を見て戴くと、

だんだん皺が増えてきて自分でも氣に食わない人相になってきます。ですから昨日一日、良かったと思う事が一つでもあったら、残りの悪い事を全部捨てて、ああ良い日だったと思う。そういう気持ちの持ち方でかなり人生が変わります。

北関東フォーラム代表幹事がお好きな俳句で、「よく見れば なずな花咲く 垣根かな」という句がございます。道を歩いていて、心がせて忙しく歩いていると、小さな花が咲いていても目に留まらない。ところが、おやっと思って立ち止まって垣根に寄って見ると、なずなが一生懸命咲いていた。・・・ああ良いものを見たなと思う。今まで、今日は良くなかったと思う気持ちが、それで全部飛んでしまって、ああ良い日だったと思えます。そのように過ごして戴くと良いと思います。

もう一つお聞きする事があります。

「昨日一日、有難うと言い、誰かから有難うと言われた方、手を挙げて下さい」

・・・これはなかなか難しい。

私は会社で年に数回懇談会をしていまして、先日仙台の営業所に行きました。そこで、「前回の懇談会で私が話をして、それを受けて何か行動が変わりましたか」と聞きましたところ、生活習慣が変わったという社員がいました。

その方は家庭で、私が話をした「有難う」と言われるような生活を実践していました。共働きで、その方が家に帰るのが一番早いので、食事を作っているのだそうです。奥様が帰って来ると、美味しい匂いが漂っていますから、「有難う」と喜んでくれる。結果、夫婦が仲良くなったそうです。お嬢さんにも何とか「有難う」と言わせようと思って、朝、お嬢さんより早く起きて、コーヒーを入れてあげたそうです。そうすると「有難う」と言われ、会話ができたそうです。その方は、

「自分が有難うと言う回数よりは、有難うと言われる回数が増えました。夫婦、子供との付き合いが非常によくなりました」と言っておりました。社内でも少しはそういう種が芽を出したと実感しました。

今、この時代の中でキーワードがあります。

私は会社を創業して30数年経ちますが、ずっと守り続けて来た事があります。それは、今やっている仕事は、社会の役に立つかどうかという判断基準、そして嘘はつかない、約束を守る、この3つをずっと実行し続けています。

嘘はつかない・約束を守る・社会の役に立つ・・・これは社会の中でもそうですし、家庭の中でも同じだろうと思います。

今まで申し上げたものは、レジメの基本哲学の「知足」、私の好きな言葉「嘘をつかな

い」「利によりて行なえば、怨み多し」の説明となります。

1月のフォーラムで知識・見識・胆識についてお話ししましたが、その中の知識について、付け加えます。

知識はどんどん古くなりますから、棚卸しが必要です。時々見直しをしなければいけません。例えば、今までビジネスホテルに泊まると、大体決まりきったサービスが付いていたと思います。ところが今は、サービスの中身がガラッと変わり、サービス競争が始まっています。値段も、5000円前後から9000円くらいの価格帯で、価格破壊が起きたと思います。

新聞やテレビでものを見る時に、自分の持っている知識がどんどん古くなっていく事に気が付かないと、はっと気が付いた時には、世の中こんなに変わっていたのかと思う事になります。ですからどこかでそう感じたら、実際に外に出て体験をされると良いと思っています。

最近では価格破壊が進んでいますから、テレビもどんどん値下がりをするし、車も値下がりしています。日本の車も100万円を割る車がいくつも発表されていますし、インドでは20万円台の車が話題になりました。重くて大きくて古いものは、どんどん安くなる。デフレスパイラルが進んでゆく。ですからどんどん縮小して固まって行って、最後は干乾びて死ぬ事になると思います。デフレスパイラルで経済が疲弊していくと、最後は枯れ木のようにになってあの世に行くのではないかと思います。

色々な知識をテレビや新聞、身の回りで受けて、それを実際に自分で出かけて行って体験をし、自分の意見がまとまってくると見識になる。それをいざ実行すると、胆識になるとお考え下さい。

では本日の論語素読の解説を致します。

しいわ ふる あたた あたら し もつ した
子曰く、故きを温めて新しきを知らば、以て師為るべし。

今の時代で視点を合わせると、小沢さんとか麻生さんがよく噛み締めるとよい台詞です。ここで一番のポイントは、「師為るべし」です。日本の国を率いるリーダーはかくあるべし。俗に「温故知新」と広がっています。

今まで自分が知っていると思ってそれっきり棚にしまってあったものも、もう一度見直しをしてみる。そうすると自分自身も熟します。論語も小さい頃に習った時の解釈と、だ

んだん年がたって中年になり、老齢になった時では、皆、全部読み方が違うし感慨が違います。昔からあるものも、その時その時の年齢・体験・考え方の違いによって、その中からはとすもの・次の世代に伝えなければならないもの・自分自身が更に磨かれるものを見つけ出す事ができる。そういう心の持ちようを持っている人が、世の中で人様を引っ張る事ができる。自分のものの見方が一つに凝り固まっている人は、人様の師とは言えない。という事で、師匠としての条件を言っています。

小澤さんが陸山会でいくら寄付金を集めたというのは、昔流の感覚で釈明をしているから、もう世の中は納得しない。それに気が付いていないのだろうと思います。

是非自分自身にも当てはめてみて、自分の知識がもしかすると古くなっているのではないかと考えて戴くとよろしいでしょう。

しいわ　くんし　うつわ
子曰く、君子は器ならず。

これは自分が器であるかないか、自問自答してみればよいと思います。

渋澤栄一という方が84歳の時に書かれた『論語講義』という本があります。これは口述筆記ですが、その中の解説には、「今の時代、君子は器ならずで考えると、自分の頭に浮かぶ人は明治の三傑（大久保利通・西郷隆盛・木戸孝允）である」とあります。西郷隆盛については、「何となくお懐かしく感じる人で、賢愚を超越している方だった」とあります。大久保利通については、「自分はこの人は嫌いだけれども、器ならずだと認めざるを得ない」と書いてあります。木戸孝允については、「組織を作り上げるのに能力を発揮した方で、自分自身で何かをするよりは、回りの人を組織化して仕事をしていくタイプの方で、やはり器ならずと言える」と書いています。ついでに勝海舟については、「器ならずとは言えない。一角落ちて、器であるという人だ」と書き残しています。渋澤栄一さんは、明治の三傑は上に置いて、勝海舟は少し下げた所に位置づけています。『論語講義』で面白いのは、明治時代の風俗や人物評価が色々書いてありますので、興味をお持ちになったらお読み戴くとよろしいでしょう。

しこう　くんし　と　しいわ　ま　そ　げん　おこな　しか　のち　これ　したが
子貢　君子を問う。子曰く、先ず其の言を行い、而る後之に従うと。

「先ず其の言を行い、而る後之に従うと」という部分を、私は枕元に貼っています。なかなか難しいことです。最初に実行して、それから理屈を考えるという動き方をしています。理屈が先に立って行動が後という動き方はしないようにしています。

子貢が孔子に、君子はどういうものかと聞いた。孔子は、子貢は口先が達者だから嗜めるような意味でこういう言い方をしています。孔子はそれぞれのお弟子さんの状況を見て、出っ張った所は直してやろう、へこんだ所は引き上げてやろうという事で、相手によって言葉が色々変わっているとお考え下さい。

子曰く、君子は周して比せず。小人は比して周せず。

公平か公平でないか、私情で人に対するかどうかです。

これは政治家で考えてみれば良いでしょう。選挙が近いと、候補者は誰にでも握手をしますね。しかし大体の候補者は、握手をしながら次の人を見ている。

周して比せずは、親しむけれども馴れ合わないという意味です。親しく思った時には、親しく思った事を素直に出せば良いし、この人は氣に食わないと思いながら親しそうな素振りを見せたら、自分で自分に嘘をつくことになるから自分が苦しいだけです。

子曰く、学ばざれば則ち罔く、思ばざれば則ち殆し。

この章句を読むと、以前に須藤幹事の依頼で、或る会でお話をさせて戴いた事を思い出します。その時は女性が中心だったので、女性向けの解釈をしました。

御主人は金の卵を産む鶏ですから、一所懸命働き卵をどんどん産んで貰うための解説です。料理番組や料理の本を見て、ご主人の好きなものや身体に良いものを一所懸命作って下さい。「学ばざれば則ち罔く」を説明しますと、料理番組を見たり本を読んで研究したりする事を学ぶといえます。ご主人が何を好きなのか調べて、ご主人を思って身体の為になるような料理を作って出せば、ご主人は気持ちよく食べて気持ちよく仕事に行ってくれるでしょう。それが「学ばざれば」です。

それを逆の事をして、ご主人の事を全然考えないで、本人が嫌いなものをどんどん作って出すような事をすれば、家庭環境は悪化します。表面的なことだけやるのではなく、相手の事を思うというのがポイントです。

「思ばざれば」とは、ご主人にもっと働いて貰おうとか稼いで貰おうと思うのは良いのですが、思いが高まって、例えば次から次に強壯剤のようなものを買ってきても、どう料理するか考えもしないで出したのでは、ご主人は逃げてしまいます。思いだけ高めても、勉強しようとか相手の為に良いものを作ろうと実行しなければ家庭は破壊します。・・・このようにお話ししました。

論語は、聞かれる方の立場や年齢、その方が体験したり経験したであろう事を見たり想像すれば、その方々に合う解説がいくらでもあります。

そうお考え戴いて、自分自身に合う解説が書いてある本を選ばれるとよろしいと思います。ちなみに私は、渋澤栄一先生の『論語講義』が私に一番合うと思っています。

しいわ いたん おさ こ がい
子曰く、異端を攻むるは、斯れ害のみ。

真っ直ぐ正しい道を進んでいるけれども、何か儲けがありそうな横道が見えて来た。皆さんならどちらの道に行きますか？ 正しい道を行けば、儲けは少ないかもしれないが真っ当な道です。違う道の方に進んで行くと、後でとんでもないしっぺ返しが出てくるとお考え下さい。

しいわ ゆう なんじ これ し おし
子曰く、由、女に之を知ることを誨えんか。
これ し これ し な し し な こ し
之を知るをば之を知ると為し、知らざるをば知らずと為す。是れ知るなり。

知ったかぶりはやめましょうという事です。2ヶ月前に曾野綾子さんが産経新聞に書いておられた記事と一緒にしました。その記事には、

何か一つの道に習熟して、専門家になる。回りも認めるような一つの道を究めた人であれば、知らないものを知らないとすっと言える。ところがセミプロくらいだと、知らないものを知っていると答えて、後で一所懸命調べて説明をする。知らないものを知らないと言うのは、かなり勇気がいる。自信がないと、知らないとはなかなか言えない。

というような事を書いておられました。

由というお弟子さんは、がさつというか行動派タイプの人です。その由に対して孔子が、少しはものを覚えなさい。知っている事を知っていると、知らないものは知らないと言いなさい。それが本当に知ることなのだ・・・と説明しています。

一知半解はやめましょう。知ったかぶりは自分も苦しいし、回りの人にも害を及ぼします。確実に間違いのないというものだけは言っても良いけれども、あやふやなものは伝えないほうが良いと捉えてください。

本日の心に残る言葉は『財政再建への道』という本の中にある言葉です。私が師匠と呼

ばせて戴いた木内信胤先生が監修をしておられる本です。29年前の本です。

昨年末閣議決定された昭和五十六年度予算は歳出の思ひ切った削減が出来ず、不足分は増税にたよる結論となりました。

このままで推移すれば、日本はますます大きな政府をかかへて、官僚統制国家となり、経済運営は行政指導型運営となることが憂慮されます。

この後に土光さんの改革が出て来ます。木内信胤先生は土光改革のお手伝いをして、理念の部会長をされました。その時に、官僚はけしからんと非常に腹を立てておられました。部会でまとめたものと、官僚が中において記録し提出されたものが、似ても似つかぬものだった事に腹を立てて、木内信胤先生は退任をされたという記憶があります。29年前の資料にあるのは、一般会計が38兆円ですが、そのうち40%が国債を出さなければ賸えない状態だったわけです。

それがどんどん膨らんでいって、どうにも手が付けられなくなって、借金が嵩みに嵩んで身動きがつかなくなってきているのが、現在のところですよ。見てくれだけ国債（借金）を減らしているかのように、国家は嘘をついて今運営している。もう少し行くと、どん底になると思います。

経済の話になりましたので、続けて経済の話をしていきます。

オバマさんが大統領に就任して50日経過しました。その間、相当な事を手掛けましたが、アメリカが上向きになり経済が好転するという兆しはまるで見えません。ビッグ3にお金を入れて再建すると言うけれども、どうやってもビッグ3は潰れるでしょう。ビッグ3のうち一つでも潰れれば、失業者が400万人出ると言われています。

アメリカ経済が疲弊して坂道を転げ落ちているのですから、潰れるものは潰れて当然だし、失業者も当然沢山出るでしょう。アメリカが借りたものを返さない国になってしまったから、今、坂道を転げ落ちているのだと思います。

リーマンブラザーズが破綻し、その金融不安から、経済の不況が日本に伝わって来ますが、今のところ海の水が膝ぐらいまで来ているような状況だと思っています。そのくらいですと、歩けます。しかし足をすくわれると倒れます。地域によっては首の辺りまで水が来ているし、業種によってもそうですが、息をついたりつけなかつたりの繰り返しをやりながら生きている業界がだんだん出てきています。アメリカは今、どんどん坂道を転げ落ちていますので、オバマさんが一生懸命止めて良くしようと思っても、一回行き着くところ迄行かなければ良くなる訳がない。これからどんどん悪くなっていくと思います。

私が一番気にしているのは、A I Gをどう決着を付けられるかです。A I Gが破綻すれば金融の津波は、私が思うに何メートルの高さですから、とんでもない状況になって来るでしょう。日本の国は、経済不況と言いながらもまだ生きていられます。ところが本当に落ち込んだ時には、終戦直後の再来が現実の事になると思っていて戴ければよいと思います。

ちなみに今年は、安岡干支学で言うと己丑です。己は、長い糸が纏れ合っただけなくなっている状況。丑は、牛が正しい道を求めて少しずつ歩いて行く。それらをまとめて考えると、今年は出口の見えない不況のトンネルに入り、出られないで苦しんでいる年です。ですから経済は右肩下がりで、今年も来年も続きます。再来年になると、崖にぶつかります。3年後は崖を転げ落ちる時代だと思います。そうなると食べものが無くなって来る。再来年に食べ物が無くなるころ迄一氣に行くかどうかは分かりませんが、準備をしておかなければいけないと思います。先日中斎塾フォーラムの参与の方とお話をした時に、この話をしましたら、その先生は、

「終戦直後を知っている年代だから大丈夫です。芋を食べれば良い。芋のおかゆの中にご飯粒が少し浮いているものを食べて我々は生き抜いてきましたから、又同じ事をやれば良い。お金がお金として通用しなくなる時代を体験しましたから」とおっしゃっていました。経済が悪化し経済不況から恐慌にまで発展すると、食べものはもう買えなくなりますから、自己防衛をしなければならない。そういう時代が、遠からず来るだろうと思っています。

先ほどご紹介した『財政再建への道』で木内信胤先生が29年前に予測したものが、その通りに進んでいく。どんどん日本国家は堕ちて悪くなっていくと書いてありますが、行き着く所まで行かないと、日本は再生しないだろうと最近特に感じます。

こういう木内先生の考え方は、総合的直観力という言葉で説明をされています。

総合的直観力について少しお話しします。最近私がブログに書いたことです。

・ 仙台で解雇された事務員さんの話・・・先日私どもの仙台の営業所で採用した事務員さんは、不況で以前勤めていた会社を解雇されて、やっと当社に採用されたという事でした。

・ 北朝鮮がミサイル発射・・・ミサイルの性能が悪くて日本の上空で爆発したら、大変な事になります。ただそういう事が起きて、人身に被害はないけれども大変な被害が起きたという事がない限り、日本の政府はなかなか対応しないでしょう。「遺憾である」とか「申し入れをしたいと思う」と、思っているだけでは向こうに伝わらないのです。

・ 小沢さんの西松建設の問題・・・民主党の支持率が32.3%から19.7%に落ちました。

- ・ 定額給付金が始まった
- ・ トヨタ・日産が賃下げ・・・ただし、これはストップがかかってきたようです。
- ・ 健康博覧会・・・先日健康博覧会に行きました。そこで新型インフルエンザの扱いが非常に小さい事を感じました。

- ・ 東北の新聞(河北新報)の農業関連記事・・・宮城県で2003年から2008年の間に、29社の建設業者が農業に参入したけれども、黒字は1社だけと書いてありました。ただ撤退はしないそうです。

- ・ 同友会での会話・・・或る会社の社長さんと話をしました。その方の会社は、売上げの2割3割が落ちたのではなく、売上げが2割3割になったとの事です。「今まで貯めて来たものがどんどん消えていく」と話していました。

- ・ ETC車、1000円で乗り放題にストップ
- ・ 年金の運用損・・・これは酷い話です。国民が国にお金を預け、国はそれを運用して利益を出さなければならないというしくみのわけです。国民から預かった年金を運用して、昨年度分として約10兆円の運用損を出す見込みというのです。大々的に追求していったら大変な問題になりますから、新聞にもちょっとしか出ませんでした。普通の会社だったら、とんでもない話です。ところが政府はケロッとして、「皆様方への支払いには影響ありません」と言っている。どれだけ搾取して、どれだけ損をすれば済むのでしょうか。

- ・ 2月の倒産件数・・・1318件で戦後ワースト3、1兆2291億円です。

- ・ PB(プライベートブランド)・・・スーパーがどんどん値下げしようとしています。

今、申しましたのは全部知識です。

総合的直観力を身に付ける為には、ありとあらゆる事に興味を持つ。そして自分がその当事者だったらどうするかを考える。自分が一番大きな興味を持った問題に対して、仮定をする。更に、仮定したものが自分の思った通りになった時には、どうしてそうなったかを考える。違う方向に行った時には、なぜかと考える。それらを繰り返していく事によって、総合的直観力は生み出されていきます。結果として、はっと気が付いたら、木内人間学が完成していったと私は理解しています。

残り時間が少なくなりましたので、最後にいくつか申します。

私はこの時代を生きる上で必要なものは、自分自身がどういう人生を送りたいか、自分なりの哲学・自分の信念を持つ事が第一だと思っています。時代に流されて、ただ生きて

いくのになにが必要だという物理的なものではなく、自分自身がこの世に生まれて良かったと思える人生を送るためには、哲学（如何に生きるべきか）を持つ事が一番です。

二番目には、それを求めて生き抜く上で必要な判断基準です。人さまからものを聞かれた時に答える。或るいは自分が大きな岐路に立った時に、右に行くか左に行くかを決める判断基準を常日頃から持っていないと、本当の岐路に立った時に、右も左も選べない。流されてしまいかねません。

更にこの時代を生きる上で必要なものは、物理的には自己防衛をしなければならないと思っています。自己防衛は一つの仲間作りになると思っています。何度かお話していますが、ソ連からロシアになった時に、飢え死にをした人が数千万人いると言われていました。これは現地に実際に行ってみると感じますが、日本のマスコミは一切報道しません。生き残った人々は、自分の食べものを分けてあって支えあう仲間の存在が大きかったと実感しました。

意識的に有難うと言ひ、有難うと言われるようにご努力戴きたいと思ひます。

有難うございました。